

2020 年度 G T セミナー G T サミット 2020 2020.9.14 ~ 9.15 後編

第187号 2020年9月28日発行

ミマモルジュ挨拶

ホテルに宿泊客の様々な相談や
ご要望に応えるコンシェルジュがいる
ように、保育においても様々な
ご要望や悩みがあると思います。
「見守る」+「コンシェルジュ」=
ミマモルジュとして、保育に関する
ご要望にお応えしていけるよう
活動していきます。

株式会社カガヤ 奥山卓矢

G T サミット 2020

2020年9月14日～15日にG T サミット 2020を開催しました。
今回は、新宿せいが子ども園から徒歩5分程のところにある、
東京富士大学の教室を貸していただき、セミナーを実施しました。

今回もオフライン・オンラインでの同時開催で、全国から約60施設の
先生方がセミナーにご参加頂き、G T からの提案として、STEM 財団
の立ち上げや地域活動報告、東京理科大の川村先生のご講演、藤森代表
の講演等を行いました。

1 日目 2020年9月14日 (月)

10:00～ 新宿せいが子ども園 園見学
13:30～ 講演 川村 康文様「乳幼児期の科学について」
15:45～ G T からの提案
17:00 1 日目終了

2 日目 2020年9月15日 (火)

9:30～ 地域活動報告
12:00～ 昼食
13:00～ 講演 藤森代表「新しい時代の保育の質」
16:00 終了

2020
GT
サミット

9/14 (月)・15 (火)
会場
東京富士大学
〒162-8601 東京都杉並区大宮2-1-7
TEL: 03-3462-7197
https://www.givingtree.jp/summit/

世界標準の
保育をめざして。
保育現場を共有する
経験者・園長先生方が
全国から集まり、
ぎゅーぎゅーに経験と知識を
語りあふ会場で。

9/14 (月) 1 日目スケジュール
10:00 新宿せいが子ども園 園見学 (園長先生と園児の交流)
12:00 昼食 (会場内でお楽しみ)
13:30 講演 川村 康文様「乳幼児期の科学について」
15:45 G T からの提案
17:00 1 日目終了

9/15 (火) 2 日目スケジュール
09:30 会場の確認
10:00 地域活動報告 (各施設より派遣された先生方の発表)
12:00 昼食 (会場内でお楽しみ)
13:00 講演 藤森代表「新しい時代の保育の質」
16:00 2 日目終了

参加費
GT 会員 限定 100 名
参加費
17,000 円 (税込) (オフラインオンライン)

参加費に込み
オンライン・オフライン同時開催のため、会場内・オンラインともに参加費に込みで対応。
http://www.givingtree.jp

※本大会は、G T からの提案として、STEM 財団の立ち上げや地域活動報告、東京理科大の川村先生のご講演、藤森代表の講演等を行います。お申し込みの際は、必ずこの大会の趣旨をご理解ください。

お問い合わせ先 株式会社カガヤ TEL: 03-5500-7197 / FAX: 03-5500-7199
お問い合わせ先 東京富士大学 TEL: 03-3462-7197 / FAX: 03-3462-7199

—シンガポールの取り組み—

シンガポールの教育省は、将来を担う子どもたちを全力で育てるしか道はないと考えました。彼らには国際学力テストでトップになるだけではなく、世界に進歩をもたらす人材とならなくてはならないと考えます。これまでシンガポールの子どもたちはイノベーションとは無縁でした。しかし、シンガポールはトップダウンの決断がすぐ実行できる上位解脱の政治体制であり、これが幸いして、早速、ただ賢いだけでなく、創造的な人材を教育することを保証する新しい教育システムを採用したのです。

—これからの学校において育てたい人物像—

「健全な自己認識と倫理基準を持ち、未来に向けて挑戦するために必要なスキルと知識を身につけている。家族、コミュニティ、国家に対する責任を果たし、自分の身の回りの世界の美しさに感謝し、健康な心身を持ち、人生への情熱に満ちている。」

—アメリカとの違い—

「アメリカの政策決定者が音楽、芸術、休み時間を学校から取り上げ、読解ドリルに多くの時間を費やすことを選んだのに対し、シンガポールは考える力のある次世代を教育するためにアメリカが「除外」した学びこそ本質であると宣言しているのです。

—価値を置く世界—

シンガポールの教育省は、今、4、5歳の子どもたちが将来働き始める頃、シンガポールの経済的繁栄を維持できるように、クリティカルシンキングする力を持ったクリエイティブイノベーションを育てようとしているのです。

—こうなってほしい—

自ら問を立て、その解を水から探す人。そして、新しい方法で考え、新しい問題を解き、未来への新しいチャンスを作り出すことに情熱を傾ける人。若者たちに伝えたい大事な価値観は、自分の強みを活かし、人生において避けることの出来ない数々の失敗を乗り越えるレジリエンスを持つことです。

—取り組みの推移—

1965年の独立以降、国家戦略として理数教育に力を入れてきました。いわばSTEM教育の先進国と言えます。また、シンガポールは、国防費と同じくらいの国家予算を教育にあてています。

—取り組みの結果—

経済協力開発機構（OECD）が世界各国の子どもたちを対象に実施する「学習到達調査（PISA）」でも、シンガポールは科学的応用力や数学的応用力などで世界 1 位を獲得しているのです。

—教育上の仕組み—

数学の授業は小学校 1 年生から、理科の授業は小学校 3 年生からはじまります。高学年になると、理数科目は専門教員が教えるようになります。また、授業をただ聞くだけの座学だけでなく、「ハンズオン」が重視されています。

—ハンズオン（体験学習）—

実際に「つくってみる」「活用させてみる」ことが重視されます。このような活動を通して、生徒たちは、自分たちが学んでいることが何の役に立つのかを実感できます。

—「バーモデル」（シンガポール式算数）—

例えば $1+2$ の足し算をするときも、ただ「 $1+2=3$ 」という式では解きません。図（バー）を書かせて。量が目に見える形にしてから解くようにします。このような解き方が身に着くと、難解な文章問題も、基本となるバー（ユニット）がつかめ、魔法のように解けるようになります。このシンガポール式算数は、「世界一の学力が付く」とも言われており、世界規模で普及しつつあります。

—STEM 教育—

保護者も非常に高いのが特徴です。「理数教育専門」の家庭教師をつけることも多いとされます。生徒と教師、親が一環となって、STEM 教育に力を入れていることが伺えます。

—幼児期における科学 科学という「science」—

ラテン語の「scire」を語源としていて、それは、「知ること」という意味なのです。「知る」という行為は、人間の自然な能力であり、その能力を引き出すことが「科学する心」を育むのです。その有効的な働きかけが、科学体験なのです。では、知るという事はどのような働きから起こるのでしょうか？現在、このように分析されています。

—科学という「知ること」とは—

「知ることや学ぶことの感情成分は、好奇心、日常体験への感情反応、自己効力感（できると感じやってみようと思う信念）などのいろいろな側面から構成されています。これらは、たがいに関係し合っていますし、複雑に絡み合っています。」それをこのように説明しています。子どもの周りには様々な環境があります。その周りの世界に子どもがどのような感情を抱くかで、好奇心も変わると言います。

「好奇心」とは—

保育の中で「新庄、意欲、態度」と言われるものと同じです。何かを発見することと、自己効力感との間には、互いに強めあう関係があります。まず、環境に対してある心情が生まれます。その内容によって、知りたいとか、出来ると感じます。すると、意欲が生まれます。意欲が生まれると、やってみようという態度が生まれるのです。そして、もっと知りたいという次の意欲が生まれるのです。子どもたちは、必ずしも、因果関係のはっきりしたもの、見るからに安心できるものという環境だけではなく、説明のつかない出来事、恐ろしい出来事との間にも強め合う関係があると言います。そのようなことに会った時には、その答えを見つけ出そうとします。身の回りのものに、素晴らしかったり、魅力的だったり、気持ちが安らいだりする一面があることを知ると、うれしくなります。そしてそれは、情緒的な成長やその後の認知的な成長をもたらすと言われています。好奇心は思考を促し、行動を引き出します。また、好奇心は自分でやろうと決めた目標にたどり着こうとするエネルギー源でもあると言われています。また、適切な機会さえあれば、このエネルギーは生涯を通じて働き続けるとされています。そして、好奇心は最終的に画期的な発見に結びつくかもしれませんし、学びと個人的な成長を促して、私たちの生活を豊かにするかもしれないのです。知的好奇心は思考を促し、行動を引き出します。知的好奇心が最も伸びる時期は「なぜ?」「どうして?」を連発する2歳から5、6歳の時期であると言われ、心理学では「質問期」と呼んでいます。大人が当たり前のように思っていることも幼児の目にはたいへん不思議なことにうつるものです。また、逆に、乳幼児期は不思議なことに興味を持ちます。幼児期におけるSTEMは、特に意識せずとも、子どもは自発的にいろいろなものに取り組んでいきます。子どもが元から持っている「知りたい! やりたい!」という気持ちを大切にすることです。子どもたちの、やりたい気持ちを大切に子どもは、自分でいろいろなことをやりたいのです。そんな気持ちを大切にします。それは、まさに「見守る保育」に通じるものがあります。子どもサイズの道具(小さいハサミなど)を用意したり、じっくりやり方を見せるなど、子どもが自分でできるように工夫していきます。時間も余裕を持って、子どもが納得するまでじっくり見守って、待ってあげます。そして、指先や身体を思うように使えるような体験をしていきます、字や絵を描いたり、道具を使うにも、指先の間隔はとても大切です。

—STEM教育に生かされる経験—

理解が早い子、心や思考力の発達が早い子が、やりたいことが身体的にできないでストレスを溜めることもあります。そこで、心や頭、身体の成長のバランスが噛み合うように、「指先をたくさん使っていきます。そのためには、大人の顔色を気にしすぎないように注意します。多くの子どもと接していると、怒られることをすごく気にする子がいることに気付きます。それは、判断の基準が怒られるかどうかになっているのです。大切なことは科学的な思考は、自分で仮説を立て、失敗を恐れずにやってみる姿勢がとても大切なのです。そのためには萎縮せずに自立する必要があります。

本稿は、2020年9月15日に行われたG Tサミット2020の講演内容をまとめたものです。

(文責/奥山卓矢)